

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102535
法人名	医療法人社団 修美会
事業所名	グループホームこすもす
所在地	香川県高松市太田下町字東横田1868番地2 (電話)087-864-5552

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年12月10日	評価決定日	平成21年1月16日

## 【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 平成 15年 7月 30日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	24人 常勤 19人, 非常勤 5人, 常勤換算 21.5人

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	4階建ての2階~4階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000円	その他の経費(月額)	12,000円	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	50円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	7名	要介護4	8名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.4歳	最低	68歳	最高	100歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団修美会 綾田内科・消化器科クリニック たけい歯科クリニック
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い市道に面し、事業所のすぐ隣には小学校があり散歩時に訪れたり、子どもたちと触れあう機会も多く、多様な地域交流に適した環境にある。建物の中は明るく広々としていて清潔である。利用者は家庭的な雰囲気の中、利用者同士が仲良く笑顔で穏やかに日々を過ごしている。職員はチームとして、全員で利用者を支え、向上心をもって利用者本位のケアに取り組んでいる。母体が医療法人で日頃の医療ケアや緊急時の対応などの協力体制ができているので安心である。地域との交流、連携にも積極的に取り組んでおり、地域密着型サービスとしての活躍がこれからますます期待できる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価より災害対策として、各ユニットにヘルメット、食料、飲料水の入った防災バックを配置している。また、職員の異動などによる影響への配慮として、各ユニット玄関入口に職員全員の名前と写真を貼っている。介護計画の見直しは3か月ごとに行うなど改善を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>年一回のサービスを見直す機会として自己評価を計画的に職員全員で取り組んでおり、質の向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議での家族からの意見を積極的に取り入れ、改善・実践に活かしている。食事の改善に対しては管理栄養士が会に参加するようになった。家族交流の場として夏祭りも実現した。定期的な家族会の開催も検討中である。また、運営推進会議をととして自治会の定例会参加につながったり、積極的に活かすことができている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>こすもす便りを毎月、家族に送付しており、利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動などを報告している。ユニットごとに意見箱を設置し、面会時や行事の際には、意見、要望などを話し合える場を設けており、気軽に話し合えるような環境づくりに努めている。得られた意見などは前向きに受け止め、サービスの質向上に役立っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>年一回介護セミナーを開催し、地域の方も参加し、個別相談の場も設けている。地域の小学校の運動会に参加したり、地区の児童によるボランティア訪問、職場体験、介護実習の受け入れ、近隣のうどん屋からうどんの玉をもらうこともあるなど地域の方と交流する機会がある。自治会のゴミ掃除、毎月の定例会にも積極的に参加しており、情報交換できる場となっている。また、併設の小規模多機能型施設と協力し、地域交流委員会を設けてボランティアの発掘にも取り組んでいる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念「家族のように我が家のように。いくつになっても自分らしく生きる。」を基本に掲げ、ユニットごとにそれぞれ独自の理念もつくっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で毎朝理念を復唱しており、職員は理念を意識して業務にあたっている。意志統一を目指し、管理者、職員全員で話し合いができる機会を設けており、日ごろのケアに結び付けている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	まず、地域の人とのあいさつから始めている。年一回介護セミナーを開催し、地域の方も参加し、個別相談の場も設けている。地域の小学校の運動会に参加したり、地区の児童によるボランティア訪問、職場体験や介護実習の受け入れ、近隣のうどん屋からうどんの玉をもらうこともあるなど地域の方と交流する機会がある。自治会のゴミ掃除、毎月の定例会にも積極的に参加しており、情報交換できる場となっている。地域交流委員会を設けて、地域の資源を見直している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年一回のサービスを見直す機会として、自己評価を職員全員で計画的に取り組んでおり、質の向上に活かしている。また、外部評価の結果を前向きに受け止め改善に活かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での家族からの意見を積極的に取り入れ、改善し実践に活かしている。食事の改善に対しては管理栄養士が会に参加するようになった。家族交流の場として夏祭りも実現した。定期的な家族会の開催も検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へ夏祭りや介護セミナー開催を案内し、市の職員も当日参加している。事業所の防災訓練にも参加を呼びかけ関係づくりを積極的に行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「こすもす便り」を毎月、家族に送付しており、担当者が写真入りで利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動などを報告している。金銭管理については、お小遣い帳をそれぞれに作成し家族に合わせた方法で報告している。職員の異動などについては、運営推進会議でも報告し、欠席している家族にも議事録を送付し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事の際には、意見、要望などを話し合える場を設けており、気軽に話し合えるような環境づくりに努めている。得られた意見などは前向きに受け止め、サービスの質向上に役立てている。また、ユニットごとに意見箱を設置し、必要があれば運営推進会議で議題として取りあげ、市町とも相談し、解決策をとり、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者や職員との馴染みの関係を重視しており、職員の異動は最小限に抑える努力をしている。新しく入った職員は事業所のVTRをみるなど、違和感なく業務に入れるよう工夫している。また、法人内でグループホームの職場実習を行いダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は基本内容から段階を踏んで行われている。各職員で内部研修の各委員会をつくり、まとめて年間計画を立て、定期的に研修を行っている。外部研修については全職員に情報提供し参加する機会をつくっている。研修内容を共有できるように研修後報告書を作成している。研修の日数の確保や研修費用の補助など考慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の監事をしており、研修部会に参加し情報交換の場ともしている。また、同業者と職員の交換研修を行い、実際に業務に入り利用者把握の方法などを勉強し、実践的な交流となっている。他のグループホームの行事などにも参加し、サービスの向上に前向きに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員と顔馴染みになれるよう、介護支援専門員、管理者は面談回数を多く訪問している。利用者や家族が見学に来たり、併設の事業所から来る場合には出入りを頻繁にするなどしている。入居後、個々に応じて自宅への外出、外泊、面会回数の調整などを行っており、家族の協力のもと工夫に努め段階的な支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの状態に日々目を向け、人生の先輩として日常生活を共にしている。利用者から励まされたり、教わることもあり、極力関わりをもち共に支え合う関係づくりに努めている。利用者は明るく笑顔のたえない様子がうかがえた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの今までの生活歴を把握したうえで、日々の関わりの中で意向を聞き取るよう努めている。中には利用者のご近所の方が来て以前の様子を教えてくれたり、家族や関係者からも情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員のみならず、職員全員で日々の気づき、利用者個々の情報、意見を出し合いチーム全体で介護計画を作成している。家族には面会時に希望や不安について話し合い、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度、期限前に見直しを行い、本人の状態の変化、要望に応じて見直しを行っている。本人、家族、医療機関の関係者、職員で話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のお墓参りにみんなで出かけたり、初詣で、美容室への送り迎え、受診時のつきそいなど利用者の希望する外出を柔軟に支援している。遠方の家族が会いに来られた際には事業所で宿泊することもある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族が希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。職員が日々の健康状態、服薬の状態などをかかりつけ医に情報提供し、話しあっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から家族と連絡を密にし、意向を把握し職員、関係者などが最善の方向性を検討することを確認している。看取りの経験はないが、ターミナルケアに向けてのガイドラインができており、勉強会も開いている。重度化、終末期を迎えても支援対策について協力し、検討できるよう準備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を大切に、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけは見られない。個人情報保護のマニュアルをもとに全ての職員が理解し、プライバシーの確保、個人情報の適切な取り扱いに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、利用者の意向を最優先している。利用者の生活歴や趣味などの情報を収集しながら利用者一人ひとりの思いや希望を尊重し、外出先を決めるなど自己決定できる場面を日常的に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一日の中でも大事なものとして捉えており、栄養面ではもちろんのこと、個々に合わせて楽しむことのできる工夫に努めている。利用者は職員と共に準備をし、役割をもっている。職員も共に同じものを食し、家庭的な雰囲気を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴の曜日は決めておらず、入浴チェック表をつけて入浴状況を把握しており、利用者の気持ちを大切に利用者のタイミングに合わせて入浴支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、楽しみごとや役割を持てるよう働きかけている。三味線、塗り絵、カラオケ、ギター演奏、生け花、日常中でのお手伝い、散歩、農作業、家族が来てのおやつ作りなどがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者本人の意向に応じて、近所への散歩、ドライブ、近くの花屋さんで買い物、温泉や外食、昔懐かしい場所への外出など気分転換を図っている。家族の協力による外泊や帰宅、美容室通いも行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は安全に配慮できる状況をつくり、時間帯を設けて開錠している。利用者の日々の状態に目を配り、見守っている。玄関には開けると鈴が鳴るよう工夫がされており、居室などに鍵はかけていない。	○	鍵をかけない時間帯を設け閉塞感のない暮らしを工夫しているが、日中の開錠している時間をさらに長くもてるよう今後の取り組みに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	各ユニットにヘルメット、防災バックを備えており、年に2回避難訓練、消火訓練を行っている。夜間の火災を想定した訓練も行っており、緊急時には近隣住民の協力が得られるよう支援活動している。防災管理者を2名配置し、厨房には水を7トンと食料を貯蓄している。	○	自分で行動できる利用者にも避難の際、役割などをふまえた避難策の検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた形態で食事を提供しており、苦手なものに対しては、料理法を変えるなど、個々に応じ柔軟な支援をしている。管理栄養士が献立を立てており、食事や水分の摂取量を記録し、報告、対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間、廊下には季節の花、外出時の写真、書道、はり絵、今日の食事メニューを掲示し、親しみやすく心地よい空間づくりに努めている。共用空間は日中日当たりがよく、マッサージチェア、畳の腰掛けを置いている。リビングから外に出られるベランダがあり、外の景色が見渡せる。浴室、台所、トイレは清潔感があり、換気もよく空気も綺麗である。全体的に居心地の良さを感じる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はどの部屋も明るく、窓からは自然の風景、校庭がみえる。利用者の居室には、家族の写真、ぬいぐるみ、観葉植物、カレンダーが掛けられており、個々の好みや状態にあわせたものになっている。		